

ものづくり = 設計力 × 技術力

「建物をたてる」ことは、「いつもの買い物」と違います

- ・敷地条件（大きさ、方角、気候、周辺環境、地盤…）が違う。
- ・目的、用途、規模、考え方、価値観、こだわりが違う。
- ・予算が違う。定価がない。費用規模が大きい。
- ・時間や関わる人が多い。
- ・一生にそう何度とない。簡単にやり直しできない。
- ・全く同じ完成品がない。（陳列されていない、相場がわかりづらい）

答えはそれぞれ違って当然

これだけ条件が違えば、答えがそれぞれに違って当然ではないでしょうか。

身のまわりや写真などで、すごく素敵だと思う建物や空間に出会うこともたくさんあると思います。しかし、それは、あくまで断片的な一部分だと思います。敷地や予算などたくさん条件を破綻することなく、全体が成立する「建物」に到達させるためには、たいへん大きな壁がそこにはあります。



「設計」省こうとしていませんか？

設計事務所に相談すると設計料が余計にかかる。建物にお金を払うのであって、カタチのない設計にお金を払うなんて無駄だと考えられる方もおられるかも知れません。実際、住宅ビルダーなどでは、「設計料はタダ」だったり、打ち合わせは営業のみでということもあります。建物はそれでも建ってしまいます。

もし、そのように建てる経営者の立場で考えてみると、ある程度の諸条件を無視しても無難に成り立つ間取り、希望や変更を極力省く工夫、難しそうな案件を避け、効率的・画一的・拡散的に作ることを前提に考えざるを得ないのではないのでしょうか。それも立派な経営企画・設計であり、知恵や多くのエネルギーを要することだとも思います。これらが「設計費」として出てこなくとも、経費など（設計・営業・広告・事務…）どこかで回収しなければ、ビジネスとしては成り立ちません。

建物はそこにいる人が意識せずとも、そこに機能しているものです。「設計費タダ」だとしても、「建物を建てる」ことは莫大な投資に違いありません。とにかく作った建物に、主役であるみなさまが合わせて生きることは、とてももったいないように思います。





私たちの目指す「設計」

設計というと design と訳され、革新的なデザイナーを連想されるかもしれませんが、私たちが目指す「設計」は、それぞれのお施主様と設計士として顔を合わせ、ご要望をお聞きし、条件に合った「答え」を掘り起こすこと、そして「つくり手」の技術を最大限発揮できるよう手順を整え・伝え、「確かな建物を築く」ための設計です。お施主様から見える、見えないに関わらず、全体をもとに、細かな要素にまで効果的な決定を見定めることが必要となってきます。意匠や機能だけでなく、安全や品質を負い、広く専門的な知識や経験を問われることは、「建築士」が国家資格であることからご理解いただけたと思います

ものづくりの要は「設計」

『設計：ある目的を具体化するための作業。企て、計画、準備』と辞書にあります。スタートは、「ある目的 (=ゴール)」を決める重要な作業です。現場の下調べから断片的なイメージ・ご要望を拾い集めて、全体としてより効果的に成立したゴールを掘り起こし、見定め、施主様と明確にしていく作業です。不利と思われる条件から思いもよらない発見があったりもします。しっかりとしたゴールが決まれば、それをより具体的にカタチにするための準備です。試算やシミュレーション、見積と材料集め、比較・検討・決定を繰り返し図面に落とし込みます。ここで「読み合す」作業も大切です。より明確に目的を示した図面をとおし、細かな要望をお聞きすることや、効果的な選択やコストバランスについても、根拠をもってお話していただけるからです。つくり手との現場で図面を「読み合わせる」ことも、迷うことなく、その技術を発揮してもらうため、絶対に欠かせない作業です。向かうゴールをはっきりさせ、その道筋を整えていくことは、投資を何倍も効果的にする、よきものづくりにとって要の作業だと私たちは考えます。「とにかくローコストで何でもよい」といわれれば、負けてしまうかもしれませんが、具体的にいえば木造住宅の建築本体工事で設備・設計費・経費のすべてを含んで坪 55 万円前後での実績もたくさんあります。同じ坪単価でも設計にエネルギーをかけた分、より質の高いものになっていると私たちは考えます。是非、お気軽にお声がけください。

一級建築士事務所 建築設計室 21 (0765-72-2421)

